

目的 多種多様の婦人衣服の形態の出発点として我々は衣服基本形態を考えている。婦人衣服基本形態とは、人体表面の展開そのものではなく、平面の布で基本的動きと生理的機能がさまたげられないように着衣基体である人体の表面に出来るだけ接して被った衣服で、胴部、袖、スカートで構成された形態である。バイシック形ドレスと呼称している。このバイシック形ドレスを構成するために考えられなくてはならない人体体型要因を追求するために、第1報では第1段階としてのバイシック形ドレスのパターン製図までの考察過程について説明をする。

方法 N女子大3年間のバイシック形ドレスの着用実験より得た資料とスライディングゲージによる測定資料、写真撮影資料を参考に身体計測値から適切と思われる型紙の寸法および製図方法を考察し、その結果に基づいてバイシック形ドレスを製作した。更に着用実験によりこの製図法等に対する検討を行った。

結果 本実験による製図法の結果は次のようであった。(1) 前後頸ぐりは写真撮影により得られた値および計測による頸付根囲を使用して楕円の弧として製図出来る。(2) 前胴部ウエストラインダーツ角は写真より計算した値を用いる。(3) 腕付根線では前腋窩点～後腋窩点までの腋窩部は $\frac{1}{2}$ 楕円として製図する。(4) 脇丈は写真撮影により得られた値を使用する。(5) 前中央丈、背丈、前肩傾斜、後肩傾斜は胴囲線を水平に保って計測した値を製図に使用する。(6) 胴囲を前後に分ける方法はスライディングゲージによる資料を参考にする。(7) 各部のゆとり量は過去の着用実験結果資料を用いて支障はなかった。